

DATA FILE



斜方晶系

名前	TANZANITE (タンザナイト) / タンザナイト
化学組成	$\text{Ca}_2\text{Al}_3(\text{Si}_2\text{O}_7)(\text{SiO}_4)\text{O}(\text{OH})$ ※微量のパナジウムを含む
色	青紫色
光沢	ガラス光沢
蛍光	なし
条痕	薄灰色
劈開	完全
断口	不規則
硬度	6 ~ 7
比重	3.2 ~ 3.4

タンザナイト

TANZANITE

タ

カルシウム、アルミニウム、酸素、ケイ素、水素のほかに、微量のパナジウムを含む。

多色性を持ち、熱すると色が濃くなる性質を持つ。

包有物を含むタンザナイトの結晶。

「タンザナイト」という名称は、青紫色をした灰れん石の宝石名として用いられる。

劈開は完全で、ハンマーでたたくと不規則な断口を示す。

素焼きの陶板にこすりつけると薄い灰色の条痕が残る。



青紫色の灰れん石

タンザナイトは、1966年にタンザニアで発見された灰れん石の変種で、微量のバナジウムを含むため青紫色であられる。その生成に必要とされる条件は世界各地に見られるが、現在のところ、タンザニアのレラタマ地方アルーシャから約60キロメートルの所にあるメラニ丘陵のカルシウムに富む変成岩が唯一の産地だ。角度によって紫色、青色、灰色の多色性を示すタンザナイトは、熱すると色が濃くなるが、380度を超えると灰色に変化してしまうのが特徴。これまでに発見された最大の結晶は重さが122カラットのもので、アメリカのスミソニアン博物館に収蔵されている。ちなみに、タンザナイトと同じように灰れん石の変種で、ピンク色やバラ色であられるものは「桃簾石」と呼ばれている。



▲長方形カットが施されたタンザナイト。



▶ファセットが刻まれたタンザナイト。

主な産地



タンザニア



タンザナイトの唯一の産地がある。

◀正方形にカットされたタンザナイト。



ティファニーが命名

タンザニアで発見されたこの鉱物に「タンザナイト」という名前をつけて宣伝したのは、ニューヨークの宝石店であるティファニーだった。発表以降、宝石として人気を博しているタンザナイトだが、結晶の色合いを増すために加熱加工してあるものも多い。なお、タンザナイトの汚れを取る際、超音波装置を使用すると結晶が壊れることがあるので注意が必要だ。

▼角度を変えて見ると、微妙に色合いが異なることがわかる。



▼タンザナイトのなかまで、ピンク色の灰れん石は桃簾石と呼ばれる。

